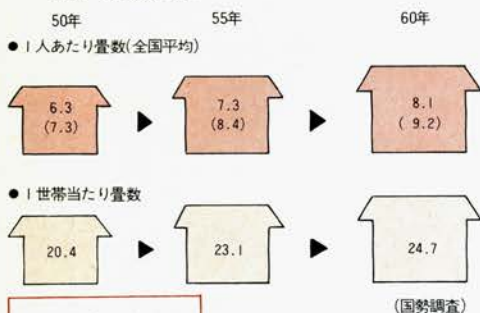


住宅

■住宅の広さ

10年で29%向上



1世帯当たり室数は4.0、量数は24.7(約40.8㎡)。持家率は11大都市中トップだが広さは第8位。全国平均と比べてもまだ狭い。

■持家率

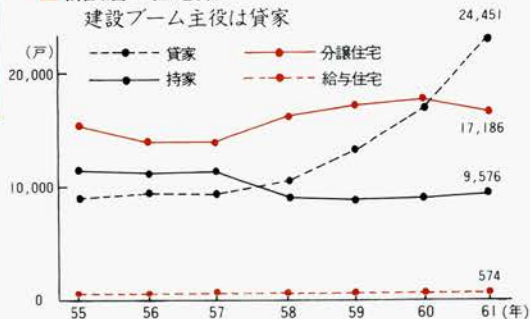
54.6%と11大都市中トップ

	持家	公的借家	民営借家	その他
50年 781,848世帯	46.9	8.6	33.3	11.2
55年 853,002世帯	52.0	8.4	30.0	9.6
60年 947,661世帯	54.6	8.0	29.1	8.3

(国勢調査)

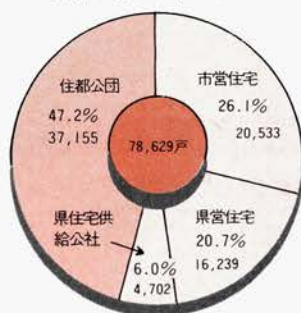
■新設着工住宅数

建設ブーム主役は貸家



■公的借家の内訳

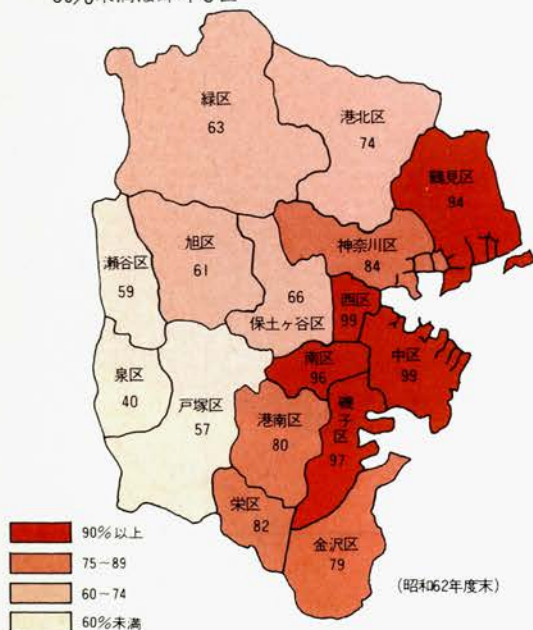
市営住宅は4分の1



下水道

■区別普及率

60%未満は郊外3区

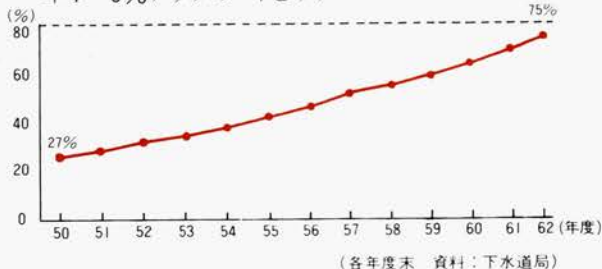


90%以上
75-89
60-74
60%未満

61年度から第6次下水道整備5ヶ年計画を策定し、事業費6,100億円を投じ65年度末には普及率85%をめざしている。

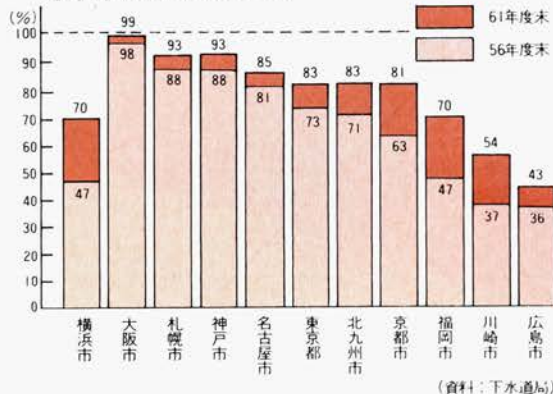
■水洗化普及率

年4~5%アップのハイビッチ



■大都市比較

5年間のアップ率はトップ



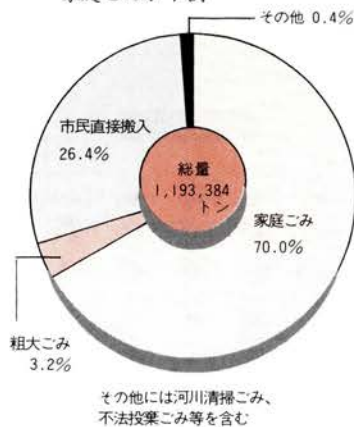
廃棄物

■ごみ収集内訳

家庭ごみが7割

1日平均ごみ量は、3,300トン。うち家庭ごみは2,300トンで市民1人当たり1日750g。6年間の人口増10.5%に対し、家庭ごみは20.9%増。

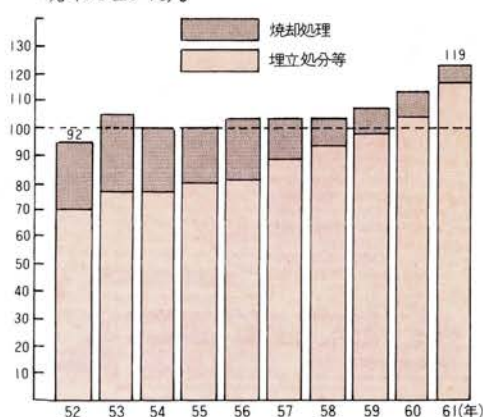
ごみ焼却工場は現在5。いずれも余熱利用施設として温水プール、老人福祉センター等を併設。焼却能力が最も大きいのは栄工場で1日当たり1,000トン。



(昭和61年度 資料：環境事業局)

■ごみの焼却処理量と埋立処分量の推移

焼却処理が95%



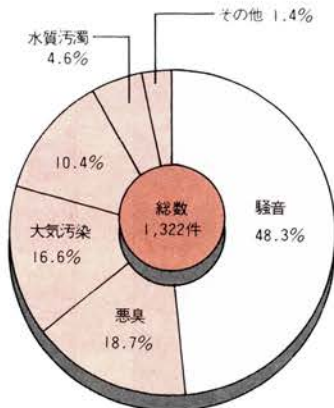
(資料：環境事業局)

公害・上水道

■種類別苦情発生件数

騒音が約半数

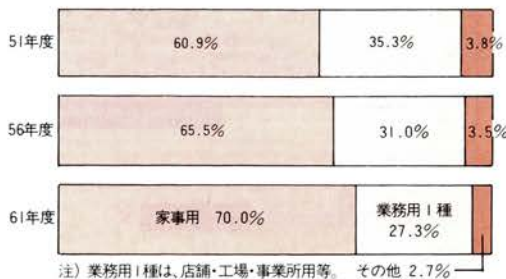
苦情の種類別の順位は昭和55年以降不変。騒音の内訳は固定発生源によるものが大多数で、カラオケ、建設作業、工場が多い。



(昭和62年度 資料：公害対策局)

■用途別使用水量

ふえる家事用水



本市では21世紀を展望した水源対策として、神奈川県内広域水道企業団を通じ、宮ヶ瀬ダム建設に参加し、将来1日46万4千m³の受水を予定。

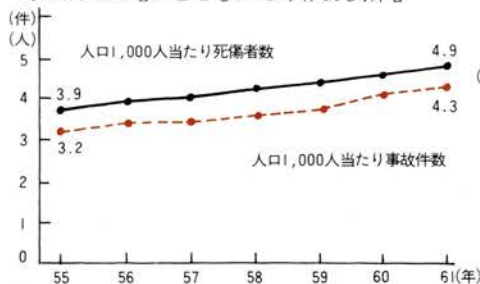
家事用の1人1日当たり使用水量は61年度 233.1ℓ。10年前に比べ38.5ℓふえた。

(資料：水道局)

安全

■交通事故件数と死傷者数

事故件数の増加とともに死傷者数も漸増

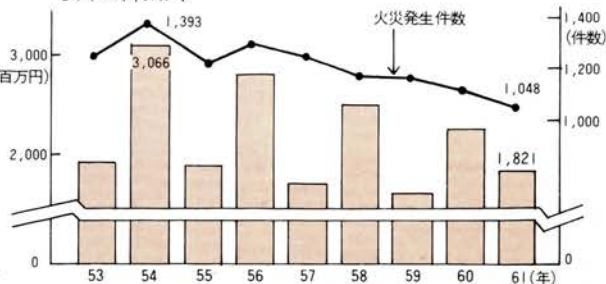


61年中の総件数は13,065、死傷者数15,054人。本市は東京・大阪に次ぎワースト3。

(資料：神奈川県)

■火災発生件数・損害額

54年以降漸減



63年4月現在の消防署16、出張所72、消防車190台、特殊車13台、救急車57台、消防艇3艇、ヘリコプター2機等を保有。

(資料：消防局)